2020 年 10 月発行

かがやき

No.128

いよかんマーマレード作り（上町工房）

ビーズ製品（小豆沢福祉園）

ギフトセット（上町工房）

販売（小豆沢福祉園）

INDEX

新型コロナウイルス感染症合同対策本部報告… 2
今年のSESSION ！はインスタグラムで！… 3
施設紹介「小豆沢福祉園」…… 4
施設紹介「上町工房」…… 5
リレーコラム…… 6
編集後記…… 6

●発行者　知的発達障害部会　部会長　小池　朗　　●編集　知的発達障害部会　広報委員会

●発行所　東京都社会福祉協議会

〒 162-8953　東京都新宿区神楽河岸 1-1　TEL 03-3268-7174　FAX 03-3268-0635

●東社協ホームページ（http://www.tcsw.tvac.or.jp/）からもご覧いただけます。

東社協知的発達障害部会・東京都発達障害支援協会 新型コロナウイルス感染症合同対策本部　報告

災害対策委員長　岩田　雅利

都内外の障害福祉施設で新型コロナウイルス集団感染が起きていることを受け、７月15日に東社協知的発達部会と東京都発達障害支援協会との合同災害対策本部会議が開催されました。合同災害対策本部会議は、これまで東日本大震災や熊本大地震など、大きな災害が発生するたびに設置され、その被災地支援活動について協議してきました。しかし、今回のように災害以外で招集されたのは初めてです。

会議では日に日に増える感染者数に対しての危機感を共有し、合同災害対策本部としてどのような役割が担えるか議論しました。また、実際に新型コロナウイルスの集団感染が発生した法人の方から、当時の状況を伺いました。

主な議論としては以下のような話がでました。

1．罹患者が出た施設への人材応援の仕組みづくりの必要性（特にマンパワーの乏しい１法人１施設のようなところへの外部からの支援）。

2．集団感染が発生した際に必要となるガウンやフェイスシールド等の確保（集約拠点をつくり感染者が出た事業所へ速やかに補給できる仕組み）。

3．保健所等の感染症対策専門家による障害者施設の感染者対応指導（具体的な支援方法や防護服の着脱や消毒など感染防止策、ゾーンニング等）。

4．感染者対応にあたる職員の対応ガイドラインの提示（宿泊先の確保や費用について）。

これまでの集団感染の事例を見ても、対応にあたる事業所の人手や物資の不足は深刻なものであることがわかります。しかしながら、特に人的支援については、支援に入る側も相応のリスクを負うため、これまでの被災地派遣と同じような枠組みでは難しいのではないかという意見も出ました。今回の合同災害対策本部会議を機に、これまで以上に、医療分野や行政との連携を進めていく必要性を強く感じました。

『今年の SESSION ！はインスタグラムで！』

文化・芸術活動支援特別委員長　大浦　孝啓

文化・芸術活動支援特別委員会は、４年前に、通常の研修ではなかなか学ぶことが出来ない、文化・芸術活動についての支援者の意識向上と障害を持った方たちの作品や商品の展示、販売の機会を設けることを目的に立ち上がりました。例年、『SESSION!』と称して、ディスプレイ等の技術を学びながら、物販やアート展示の機会を設けてきました。

しかし、今年は年度当初から新型コロナウィルスが猛威を振るい、様々なイベントが中止となっている中、開催は無理だろうと早々に判断し、中止の方向でいました。そのような中、東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センターの東京Ｄ＆Ｉプロジェクトで行われている『企業協働プログラム』にお声掛けをいただき、『SESSION!』をオンラインで取り組むことになりました。

＃協働プログラム

「協働プログラム」は、企業と障害関係団体とその地域の中間組織が連携し、３者が取り組みやすく、３者にとって意義のあるプログラムを年に３～５件企画･実施し、今年で４年目となります。私たち『SESSION!』のオンライン化には、AIG損害保険株式会社様のご協力をいただけることになり、４月以降オンラインでの会議を重ね、新型コロナウィルスの影響で、障がいのある方たちの製作した商品等を販売する機会が著しく減ってしまった中で、販売促進できる機会を設けるだけでなく、協力企業様やオンラインで興味を持っていただいた方に障害のある方たちの理解につながることを目的にインスタグラムの開設を行うこととしました。

＃みんなで協働

現在、オンライン会議に参加している障害福祉団体２事業所でパイロット版を作成し、商品の写真の見せ方、付随する説明等の内容、ハッシュタグの付け方などをAIG損害保険株式会社のボランティア様の協力を得ながら、インスタグラムの“見せ方”を学びながら、障害福祉を知らないより多くの人に見てもらえるような内容にできるように会議をすすめています。

当面10月に立ち上げを目指し、同様に協力を得ながら、10団体程度から始め、徐々に仲間を増やしていく方法で行っていきたいと考えています。

＃情報発信・社会貢献

また今回のインスタグラムに関する広報資料を作成し、東京ボランティア・市民活動センターとつながりのある企業様に配布をし、より多くの方に見てもらえるように情報発信を行い、障害福祉団体は自分たちの商品のPR及び障害福祉への理解促進、企業様にとってはコロナ禍の中でできる社会貢献につなげられるようにすることも予定しています。

施設紹介
小豆沢福祉園

【施設概要】

板橋区立小豆沢福祉園は、平成13年４月板橋区からの指定管理を受けて、社会福祉法人東京援護協会が運営している生活介護（54名）の施設です。

板橋区の北東部、緑豊かな小豆沢公園の近くにあります。

身辺介護をはじめ機能訓練、生産、創作、余暇活動などの機会の提供を通して、地域社会での生活を支援しています。

【活動内容】

小豆沢福祉園では、自分らしく安心して地域生活を営めるよう、各プログラムに取り組んでいます。障がいの状況などに応じて小グループに分かれ、各々のペースに合わせた活動を行っています。また、グループを超えた活動を通して、環境や人との関わりなどの変化に順応しながら、自分らしくいられるよう多様なサービスを提供しています。基本となる活動の一部をご紹介いたします。

〇機能訓練・運動・マッサージ

理学療法士と生活支援員とで運動プログラムを作成し、筋肉の緊張緩和、拘縮の緩和などの改善に努め、運動機能が維持できるよう取り組んでいます。また、屋外での運動を通して、身体機能の向上と心身のリフレッシュを図っています。

〇集団ストレッチ・音楽療法

言語を用いたコミュニケーションが苦手な方に配慮し、非言語的コミュニケーションとして、音楽に合わせて楽しみながら身体を動かすことで、心身機能の維持・向上に取り組んでいます。

〇生産活動

ビーズ製品、布製品等を作成･販売しています。地域での販売や注文をいただきながら、日々忙しく製作しています。

また、地域の方やご家族にご協力していただき、アルミ缶つぶし作業にも取り組んでいます。

【イベント・地域活動】

現在は新型コロナウイルス感染防止のため自粛していますが、夏祭りや秋の施設公開行事などを通して、多くの地域の方と触れ合う機会を大切にしています。イベント開催時は、地域のサンバチームのステージや近隣中学校の吹奏楽部の演奏を披露していただいたり、児童館などにも協力していただいています。また、地域のお祭りや町内清掃（ゴミ拾い）に参加するなど、地域の一員であることを意識しながら、活動に取り組んでいます。

ビーズ製品

販売

施設紹介
上町工房

【上町工房とは】

親の会を母体に運営してきた『上町福祉作業所』は、平成20年に社会福祉法人せたがや樫の木会に入り、平成27年の建て替えを機に「上町工房」と名前を改め、プログラムも一新。隣にグループホーム「どんぐりホーム上町」を併設した、定員25名の就労継続支援Ｂ型事業所です。

【上町工房の目指すもの】

「『働くこと』を通して、仲間と共に充実した生活を送れるように支援する」という目標の元、「働くこと」「身体つくり」「仲間つくり」「余暇支援」を４つの柱として活動を組み立てています。得手、不得手があるのは当たり前、皆が安心して自分の持ち味を発揮し、様々な刺激を受け合いながら、主体的に活き活きと過ごせること目指しています。仕事はもちろん、毎日の体操や発表、ウォーキングに歌、フラレッスンやアート活動、「TURN」とのサルサ交流、そして月ごとに、季節感を大事にした行事を取り入れ、年間を通してめりはりを持った過ごしを大切にしています。

仕事を一生懸命がんばったという充実感や、好きなことに一生懸命取り組めた、仲間と一緒に楽しめたという充実感は、必ず暮らしの張りとなり、また次への意欲に繋がっていくことを感じています。

このコロナ禍の現在、今まで通りの活動は難しくなっていますが、そんな時だからこそ『楽しむことも自粛しなれば』という雰囲気にはならないよう、いかに安全に上手に楽しめるか。上町工房のテーマソング「♪楽～しく仕事する、ここは上町工房♪～」の実現を考えていかなければと思うところです。今年の夏祭り「サマーフェス」は『無観客ライブ』でオンライン配信を計画中です。

【自慢の自主製品】

いちご、梅、パイナップル、リンゴ、かぼちゃ、ゆず、ミックスベリー等々、旬の素材を活かして、無添加で手作りする季節のジャムや、一つ一つ丁寧に、皆で切って天日干しにした切干大根は大好評。味も栄養もぐっと凝縮したドライ野菜･ドライフルーツも、いざという時のストックとしても、時短料理の一つとしてもぴったりです。皆さんの包丁の腕前もぐっとアップしています。

サマーフェスでフラ

ドライ野菜

りんごジャムづくり

切り干し大根づくり

Relay Column 私の主張 39

「ありがとう」の力と循環

社会福祉法人トポスの会　就労支援施設ウィズユー　副施設長　若松　千春

就労支援を行っていると、どうすれば当事者の方が日々の仕事を問題なくこなせるか、ということばかりに目が向いている自分自身に気づき、一度立ち止まることがあります。働くことの目的は皆さん様々ですが、今働いている環境の中で当事者の方が周囲から「ありがとう」と感謝される機会はどのくらいあるのだろうか、と振り返るようにしています。その機会が無い、もしくは少ないといった場合には、要因を探り、どのような支援や調整が必要かを考えます。他者から感謝され“自分は役に立っている”と感じる経験は、ご本人の「自己有用感」を高めることに繋がるからです。そしてそれは、企業就労や福祉的就労に限らず、就労定着のための重要な要因です。

有用感は「自己効力感」を高めることにも繋がり、今後当事者の方が何かしらの課題と向き合ったとき「自分なら出来る！」と、立ち向かう力にもなるでしょう。

また、有用感や効力感が積み重なることで「自己肯定感」が高まり、上手くいった出来事や、時には上手くいかなかった出来事に対して、当事者の方が必要以上に自責的もしくは他責的になることなく、適切な原因帰属がしやすくなるでしょう。

繰り返しになりますが、私達は当事者の方が働きながら「ありがとう」と言われる経験が増えるよう心掛けています。

そして時に、私達支援員は当事者の方から支援に対して「ありがとう」と言ってもらえることがあります。それは支援員が日々働くためのとても大きな活力になります。そう考えると、「ありがとう」の力は巡り巡るのだな、と考えさせられます。

編集後記

今年は長梅雨で気温も上がらない時期が続いた後、梅雨明け８月に入ったとたん待っていたかのように例年のごとく夏本番の暑さがやってきました。令和２年度、コロナ禍の中で思うような利用者支援が出来ず、各施設・グループホーム、事業所で悩み多き年になりましたが、私達の福祉サービスを受ける利用児、者さん達の身になって乗り切っていきたいものです。ご家族の応援も得て頑張りましょう。東社協本部会では、部会方針で職員研修はオンライン方式が続きます。職員間の会合による直接的な繋がり作りは出来ませんが、オンラインの利点を生かしつつ、有益な情報交換や資質向上の研修努力も励まれているかと思います。感染防止に追われる日常が続きますが、施設職員としての本分を忘れないようにしたいと思う今日この頃です。

（八幡学園　久保寺 玲）